

# 盛大に開催！ 第12回那須九尾まつり

お稲荷巻きの長び日本一の記録達成！



九尾まつりが、余笹川ふれあい公園を会場に9月28日(日)に開催されました。まつりのメインイベントの「日本一ながいお稲荷巻きに挑戦!!」には約400人が参加し、見事127・9mのお稲荷巻きを完成させ日本一の記録を達成しました。

当日は天候にも恵まれ、過去最高の約47,000人が来場し、九尾にちなんだ盛りだくさんのイベントを楽しみました。



今年もボランティアのみなさんにお手伝いいただいたキツネメイクが大好評！



九尾絵画コンクールで最優秀賞に輝いた(左から)阿部紗央さん(那須高原小1年)、奥泉寿音さん(田代友愛小3年)、高野陽生さん(那須小6年)、貝瀬咲香さん(黒田原中1年)



長蛇の列ができた「那須日級グルメ選手権」



幸福の科学学園チアダンス部がポンポンで町制施行60周年記念の「60」を表現



友好都市大洗町のゆるキャラ「アライッペ」も登場した他市町との交流イベント



オープニングを飾った九尾子狐太鼓

## 那須の歴史余話(32)

### 明治の皆既日蝕観測

明治20年(1887)8月19日、新潟県、福島県、栃木県、茨城県の一部を皆既帯が通過し、皆既日蝕が観測された記録が残っている。日本では101年ぶりの皆既日蝕で、初めて近代の観測が福島県白河で行われた。この皆既日蝕は世界中から注目され、米国のアマースト大学のデビッド・ベック・トッド博士を中心とする観測隊が白河で近代的な設備を設置し観測を行っているのである。また、明治政府は国家事業として取り組み、観測隊の支援や観測機材、一般の観望客を運ぶため、上野から黒磯までしか通じていなかった鉄道(現東北本線)を突貫工事で白河郡山まで延伸開通(明治20年7月16日白河駅開業)させている。当日は臨時の汽車を通常の3倍に増列運行し、往復の汽車賃を半額にするなど、白河は多くの見物客を迎え大いに湧き上がったのである。8月5日付で官報を発行

その中で、日蝕を観測できる地域には、内務省からは各郡区役所・警察署へ、文部省からは各中小学校へ白光(コロナ)写真(スケッチ)心得を配布し、観測に協力するよう伝えている。

また、午後からは学校や銀行が休みになった。これだけの盛況にもかかわらず観測所(司天台と仮称した)での観測隊は曇天、雨天のため皆既日蝕を写真でも肉眼でも観測できなかったのである。しかし、白河近辺や新潟県では部分的に晴れ間があり幾つかの場所で皆既日蝕を見ることに成功している。

那須地方にも観測所が設けられた。黒磯駅から東北六丁程の高久の小高い丘との表記であるが、愛宕山であろうと思われる。この地には、理科大学(現東京理科大学)の一行が観測のため小屋を設置した。(写真参照)県内では、宇都宮と日光でも観測が行われている。

この時の日蝕は、日本が近代化を歩んで初めて予告できた日蝕であり、国を挙げての観測であった。白河には、旧棚倉藩主や旧土佐藩主、旧大垣藩主などに福島県令や栃木県令で知られ、警視総監となっていた三島通庸も来賓として来ていたのである。



高久の愛宕山に設置された観測所

日蝕は悪いことが起きる前兆と考えられていた。この時も念仏を唱える人たちがいたという。